

2007.8.25

Customizaing Collaborative & Autonomous Learning

「教育方法・技術論」における 協調自律学習のカスタマイジング

長尾 尚 市川 隆司
大阪信愛女学院短期大学

協調自律学習のカスタマイジング

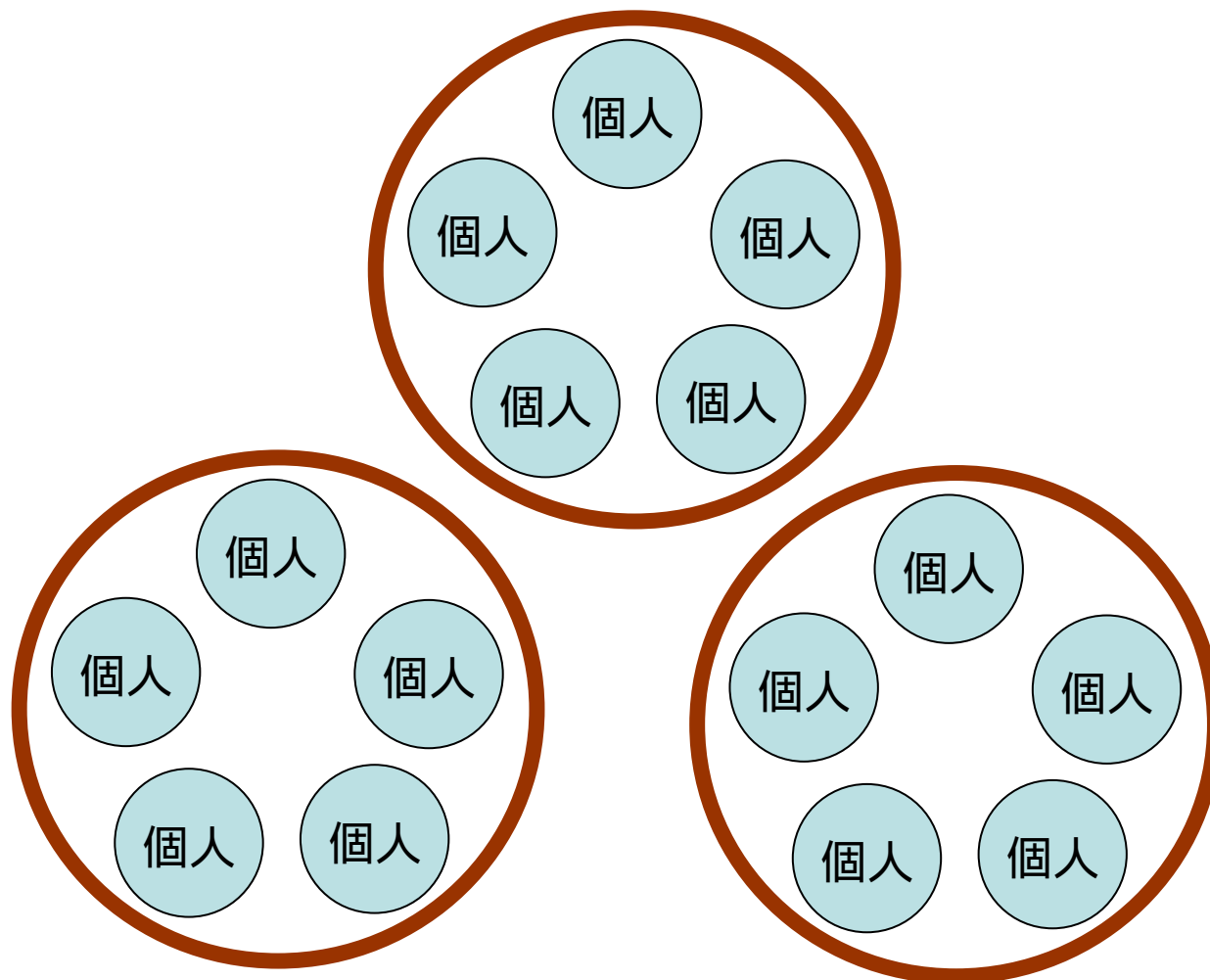
教材の共同開発で学習者の多様性に対応！

チーム学習のメタファー

- 「海外パッケージ旅行を引率する
未熟な添乗員になった気分です。」
- 「学生は、卒業を控えて仲良しチームで
海外パッケージ旅行に行くかのようにです。」

バランスをとるもの

- 個人
- チーム
- チーム間



自律協調学習の枠組み

1. 大きな学習の流れを設定する
2. 機能するチームを編成する
3. チーム相互の活動を入れる(学団)
4. 個人の課題を明確にする
5. 学習支援システムの利用を想定する

1. 大きな学習の流れを設定する

- 学生の誰もが参加し易い課題
- 「教育方法と技術論」なので学校関係のテーマ
- 討議や発表が、うまく配合されている
- 例：2020年の学校の構想
 - 高校を基本に設定する(高校の免許)のも良いかも
 - 小中高で自由に選ばせるのもOK

2. 機能するチームを編成する

- チーム人数は, 5名を維持したい
- 役割分担を明確にする
- 個人が, チームに貢献できるように設定
- 絶えず役割の遂行状況を確認させる
- 自己紹介などを上手に行わせる
- 最初に心の垣根を取り払えるようにする

3. チーム相互の活動を入れる

- チーム間で取り組む作業を入れる
- 競わせないが、チームを意識させる
- チームのアイデンティティ確立
- 例: チームで写真を撮る
- (チーム名は、後ほどでOK)
- クリアファイルに入れて見えるように
- 学団の活用(学習集団: 4チーム)

4. 個人の課題を明確にする

- 基本は、個人であることを意識させる
- 個人の成果をあげるためにチームを使う
- チーム内で相互に関わる機会を設ける
- 互いにウォッチしていることを意識させる
- 相互評価を無理なく取り入れる
- 程よい緊張関係を作り出す

5 . 学習支援システムの利用を想定する

- 授業内では、課題が収まらないよう設定
- 記録の重要性に気づかす
- 個人が繋がって学習している意識づけ
- 情報共有の意味を知らせる
- 1週間の意識的なブランクを埋めていく
- 誰かが学習していることを知らせる
- プロフィールを書き込ませて共有してみる

協調自律学習の成立

- チーム内で協調して作業を実施
- 個人が自律して、学習を始める